



36号 令和6年6月24日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

# 校長だより

呉市立阿賀小学校  
安宗 誠



## なぜ「365日の紙飛行機」なの？

今月の歌「365日の紙飛行機」。

各教室から毎日元気のよい歌声が響いてきます。

この歌、なぜ、「紙飛行機」なのでしょう？

「風船」ではいけないのでしょうか？

「風船」はふくらませたあとは風まかせ。いつ、どこに落ちてくるかも分かりません。

「紙飛行機」は「こんなふうに飛んでほしいなあ。」と願いを込めながらいろいろ工夫して折ります。飛ばすときも、力加減も工夫しなければなりません。しかし、ようやく空に放つても、わずか何秒か何十秒したら落ちてきます。

そんな紙飛行機を飛ばすことが、人生と重なるというわけです。

**「距離を競うより どう飛んだのか どこを飛んだのか」**

**「人と比べることより、自分の命をどう精一杯生きたのか」**

**重なりますね。そういう心持ちが「一番大切なんだ。」ということなのですね。**

だから、1日1日の積み重ね、「365日」という言い方がしてあるのでしょうかし、「風船」ではなく、「紙飛行機」なのでしょう。

